

徳島県立総合大学校 とくしま政策研究センター
平成21年度 外部評価委員会 議事録

1 日 時 平成21年7月15日(水) 午前10時00分から午前11時40分まで

2 場 所 徳島県自治研修センター 1階 第3教室 (徳島市南庄町)

3 出席者 (別紙「出席者名簿参照」)

- (1) 委 員 員 5名全員出席
- (2) センター職員 所長、副所長、研究員4名

4 次 第

- (1) 開 会
- (2) 委員長及び副委員長の選任
- (3) とくしま政策研究センターの組織体制について
- (4) 平成20年度研究成果について
- (5) 平成21年度研究テーマの概要説明
 - ① 地域の未来図作成支援事業について
 - 「地域ブランドの検討」
 - 「限界集落の維持存続に向けた取組」
 - 「交流移住の推進」
 - ② 川づくりと住民との協働について
- (6) 研究テーマについての助言・提言等
- (7) その他
- (8) 閉 会

5 配布資料

- 資料1 ・次第
 - ・出席者名簿
 - ・配席図
 - ・徳島県立総合大学校とくしま政策研究センター設置規程
 - ・徳島県立総合大学校とくしま政策研究センター外部評価委員会設置要領
 - ・徳島県立総合大学校・とくしま政策研究センターの組織体制
- 資料2 非正規労働者の状況把握のためのアンケート調査報告書
(調査報告書は、「まなびーあ徳島」ホームページ内→政策研究センター
→研究活動一覧→平成20年度の研究成果 に掲載)
- 資料3 平成21年度 研究テーマの概要

6 議事概要

(1) 開会

① 挨拶

とくしま政策研究センター所長

② 委員紹介、職員自己紹介

(2) 会長及び副会長の選任

委員の互選により、玉有委員を委員長に、友滝委員を副委員長に、それぞれ選任した。

(3) とくしま政策研究センターの組織体制について

「資料1 とくしま政策研究センターの組織体制」により、事務局より説明。

(4) 「平成20年度研究成果について」及び、

(5) 「平成21年度研究テーマの概要説明」

- ・「資料2 非正規労働者の状況把握のためのアンケート調査報告書」及び
- 「資料3 平成21年度 研究テーマの概要」について、事務局より説明。

(6) 研究テーマについての助言・提言等

【委員長】

「非正規労働者の状況把握のためのアンケート調査」は、派遣村など、非正規労働者の問題がピークになっていた今年2月の調査で、タイミング的によかったと思う。

データも、興味深い内容となっている。サンプル数が、「500人」と、若干少ない気はするが、大きな傾向は読み取れる。調査対象の属性は？

【事務局】

出身地については、資料2の23pの「問36」を見ていただければ、わかります。ちなみに徳島県の出身者は3名です。

【委員】

地方に足が向くのは、相当に厳しいという結果が出ている。やはり、かなり上手く「資料提供、情報発信」をしないといけない。

農林水産業などの第1次産業は、特に厳しい状況である。そこをどうするかだと思う。

【事務局】

今回の調査には、「都会の非正規労働者に、県内へ移住していただきたい」との狙いがあったが、その点では厳しい結果が出ております。

ただ、今後の取り組みの結果として、情報提供をすることが重要であることはわかりました。また、情報提供を行う場合、ターゲットを絞っていく必要があるのではないかというのが、今回のアンケート結果で、出てきた課題であると考えております。

【委員】

東京で全国の地域づくりの会に参加すると、徳島県というと「上勝」の名前が一番に出る。徳島県の地域ブランドとしては、上勝町がダントツに知名度が高い。上勝では、小さなことを積み重ねて、地域全体が自分たちの町をよくしようという気運が盛り上がり、今のように有名になった。

美波町も「ウェルかめ」を契機に、住民の意識とか、モチベーションを高めて機会を逃さないようにするべきだと思う。

私は、「森林林業研究所」でも外部評価委員もしている。今回のアンケート調査で、農林水産業への就業についての部分は、「森林林業研究所」にとっても、興味深い結果であると思う。「仕事がきつい」などのイメージを打破していく必要があることを提言してほしい。

【委員】

河川行政について、私は正法寺川の川づくりに参加しているが、民間主導でやっている。行政の担当は、1～2年で変わってしまう。

「川づくりと住民との協働について」の研究においても、まず、行政よりも住民の方に聞き取り調査をやっていただきたい。また、住民も交えたプロジェクトチームを作ったほうが、より活性化できる案が出ると思う。

【委員長】

「徳島経済研究所」では、今年度、農業をテーマに研究されているようだが、今度の「非正規労働者の調査」では、農業に、非常に厳しい結果が出ているが？

【委員】

結果は予想したとおりだった。「農業はもうからない」から興味がないのだと思う。もうかる農業を目指すべきだと考えている。そのためには、どうやればいいかが、課題となる。

「とくしま政策研究センター」の研究については、どれだけ県や市町村の行政に対して、政策提言や活用ができたかを検証する必要がある。

今回の調査は基礎資料であり、「情報発信が必要である」との答えが出ているので、流す情報ルートも吟味していく必要がある。また、求められている情報発信の中身が、仕事・交通等なのだという事もわかった。

今後は、流す情報の種類が重要となる。

【委員長】

研究が、県や市町村の施策にどう活かされるかが、重要であるという点は、私の意見も同じだ。

研究員のほとんどが、県政策企画総局の兼務であるが、その狙いも、研究成果を県の施策などに反映されることにあるか？

【事務局】

政策企画総局は、県全体の行政の企画調整をする場所であり、兼務の意味は大きいと考えております。

特に、政策企画総局には、政策の調査・調整役である政策調査員が配置され、各部局との兼務になっております。今回の非正規労働者の調査結果も、政策調査員を通じて、情報を全庁で共有できるようにしたいと考えております。

【委員長】

県民局の地域支援センターと連携する意味は？

【事務局】

県民局は施策として実施するが、政策研究センターでは現状分析とか研究を行います。また、結果を全県的に活用することも視野に入れ、取り組み結果をまとめ、次年度の評価委員会においても、ご説明したいと考えております。

【委員】

県南部の「地域ブランドの検討」には、市町村の職員も入っているのか？「ブランド化」を考える時に、市町村の意見も活かしてほしいと思うが。

【事務局】

県民局の地域支援センターには、関係する市町村の職員も入っており、市町村の意見も聞く体制となっております。

【委員】

「地域ブランドの検討」のテーマは、NHKの「ウェルかめ」が放送されるから決めたのか？

【事務局】

もっと前から決めていたテーマで、放送が決まったのはその後です。

【委員長】

徳島の認知度は、アンケートを見ても低い。「移住」や「地域ブランド」にも、認知度が関係する。今後、南部のブランド化ということと、徳島県の認知度を高めていくということ、統合していく体制が必要だ。

【事務局】

徳島県のブランド力を高めていくためには、各地域のブランド力を高めていく必要があります。長く使えるブランドを確立することが大切で、一過性のもんではいけない。「ウェルかめ」だけではなく、複数年でやっていく必要があると考えています。

【委員長】

限られたスタッフではあるが、成果は要求される。こういったテーマで研究してみたらという、委員の皆さんのご意見をいただきたい。

【委員】

「地域の未来図作成支援事業」の3つのテーマのうち、1つでもうまくいけばいいと思う。この3つのテーマ全体を把握できる、コーディネーターがいればいいのだが。

「地域ブランド」は、まちおこしや活性化とリンクする。ずっと見てみると、結局は、リーダーかなと思う。どういうリーダーがいて、どう行動したかが重要である。

「地域のリーダー」、「まちおこしをどう支援するか」、「地域の体制はどうあるべきか」、というような調査や提言、方法論を整理してみてもどうか？

地域の活性化の全体の方法をまとめるより、ここが大事というところを、思い切って提言してはどうか？

上勝のような町おこしのできる可能性は、県内どの地域にもあるが、上勝には、傑出したリーダーがいるからできていると思う。そこに絞って、提言するのはおもしろい。

【委員】

まったく私も同感だ。傑出したリーダーがいないと、地域づくりはできない。

上勝町の横石（知二）さん、新町川の中村（英雄）さん、祖谷・大歩危の植田（佳宏）さんなど、県内には、いい事例がある。「リーダーを支援し育てていく」というテーマはおもしろい。

「地域の未来図」の3つのテーマは、具体的で興味深いものばかりで、多いに期待している。

特に、南部の「ウェルかめ」は、やはり大きな材料であるので、できれば番組の放送に合わせて、ブランド化のスピードを早めてほしい。

「限界集落」については、「過疎法の改正に伴う過疎地域のアンケート調査」を1年半ぐらい前に県の別の部署でやり、私もその委員であった。結構だぶってくる内容があるかと思うので、そちらもご覧いただいております。必要かなと思う。

【委員長】

地域のキーパーソンを、まちづくりを含めて研究したらとのご提言ですね。

【委員】

県の観光協会は、「いなか博」などたくさんのパンフレットをつくり、情報発信しているので、西部の交流移住の促進のマップづくりでは、県観光協会とも情報交換等をしていただければと思う。

「ブルーツーリズム」や「グリーンツーリズム」なんかも、参考になると思う。

【委員】

南部の研究が成功したら、他地域でもやるのか？

【事務局】

今回の研究対象地域をモデルとして、政策提言や情報発信をし、他の県内市町村でも活用できる研究にしたいと思っている。

【委員】

その際は、市町村への助言等もお願いしたい。

(7) その他

外部評価委員会の進め方について、具体的な評価点数をつけるのではなく、研究に対して意見、提言を行う形で、当分進めるということで、各委員が了承した。

(8) 閉 会

(別紙)

徳島県立総合大学校「とくしま政策研究センター」

外部評価委員会 出席者名簿 (平成21年7月15日)

◎ とくしま政策研究センター「外部評価委員会委員」

委員氏名 (敬称略・五十音順)	役 職	備 考
植 田 和 俊	(社)徳島新聞社専務理事・総務局長	
玉 有 繁	徳島文理大学 総合政策学部 教授	委員長
田 村 耕 一	(財)徳島経済研究所 専務理事	
友 滝 洋 子	藍住町国際交流協会 会長	副委員長
森 真 弓	鳴門市 介護保険課 係長	

◎ とくしま政策研究センター「職員」

氏 名	役 職 (とくしま政策研究センター)	備 考
谷 口 哲 也	所 長	徳島県政策企画総局 県立総合大学校本部長
板 東 通 泰	副 所 長	自治研修センター 次長
中 村 順	研 究 員	政策企画総局 課長補佐
奈 良 京 子	研 究 員	" 事務主任
栗 島 孝 枝	研 究 員	" 主 事
清 水 容 治	研 究 員	県立総合大学校 研究員

◎ そ の 他

氏 名	役 職	備 考
小 椋 昇 明	徳島県政策企画総局 主査兼係長	